

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構建築研究本部

Mail Magazine【建築研究本部かわらばん】VOL.106 2018/5/18

このメールマガジンは、北海道立総合研究機構（道総研どうそうけん）建築研究本部が、日頃の調査研究、普及業務などで携わっているニュースを中心に、毎月お送りしているものです。

今月号のトピックス

■お知らせ

6月6日（水）に平成30年建築研究本部研究成果報告会を開催します。

■建築性能試験センターより

建築性能試験センター発足

■北方建築総合研究所より

研究紹介「既存木造住宅の熱・湿気性能評価と断熱改修手法の構築に関する研究」（平成26～28年度）

■新規採用職員からひとこと

■お知らせ

平成30年建築研究本部研究成果報告会について

今年は旭川市で研究成果報告会を開催します。

建築研究本部が取り組んでいる建築・まちづくりの研究について、平成29年度終了課題を中心に近年の研究成果を報告します。また、第三部の全体質疑では、建築研究本部が果たすべき役割、今後取り組むべき課題について、スマートフォンを利用したリアルタイム投票・アンケートシステムを用いて参加者の皆様と意見交換を行う予定です。さらに、今年はポスター発表を行い、研究職員がみなさまの質問に直接お答えいたします。

是非ご参加ください！

日 時：平成30年6月6日（水）10：00～16：40

場 所：旭川市大雪クリスタルホール

参加費：無料 定員：150名

申 込：下記申込みフォームよりお申込みください。（5月31日（木）〆切）

▼詳細は、こちらのご案内専用ページをご覧ください。

<http://www.hro.or.jp/list/building/koho/event/>

▼案内チラシ・プログラム（PDF）

<http://www.hro.or.jp/list/building/koho/event/180606.pdf>

▼申込みフォーム

https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken_q

※「報告会申込み」と書いて送信してください。

 建築性能試験センターより

建築性能試験センター発足

試験センター 安全性能部 渡邊

建築研究本部は今年度の組織改編により建築性能試験センターを新設し、4月から業務を開始しています。

従来から国土交通大臣指定の性能評価機関として防耐火に係る性能評価試験や各種試験等を総務部性能評価課で実施しており、北方建築総合研究所の一部門として、札幌の構造計算適合性判定センターでは建築基準法に基づく構造計算適合性判定業務を実施していました。この二つの組織の業務には、どちらも法令等に基づく業務であり、的確さや第三者性を求められることなどから、建築性能試験センターとして組織を統合しました。

このことにより、旭川で実施していなかった構造判定を旭川でも実施できる体制になり道北および道東地域の皆様の利便性が向上します。また、札幌オフィスでは性能評価試験や各種試験の相談窓口となることで、道央・札幌圏など多くの皆様の利便性が高くなりましたのでご活用ください。

これらの建築性能試験センターの業務は、耐震偽装事件や防耐火性能の評価試験における不正試験体問題など、過去に偽装などの事件があったことが業務の対象となっており、センター組織の目的でもある的確さや第三者性が求められています。昨今も試験結果の偽装や検査の体制が問題になる事例もあり、世の中はよりの確性を求めています。

試験センターは試験機関としてJNLA登録の認定を受けるなど試験品質管理に取り組んでおり、職員一同、ご依頼いただく皆様の利便性向上と的確な試験や評価を行うことを目標として、気を抜くことなく日々研鑽して参ります。

▼建築性能試験センター

<http://www.hro.or.jp/list/building/bptc/>

 北方建築総合研究所より

研究紹介「既存木造住宅の熱・湿気性能評価と断熱改修手法の構築に関する研究」（平成26～28年度）

試験センター 安全性能部 評価試験課 遠藤
(当時 北総研建築研究部建築システムG所属)

建設から年代が経過した住宅ストックが増加していますが、これらの有効活用のためには、断熱改修等による性能向上が重要になります。在来木造工法の住宅住宅の断熱改修においては、熱損失や内部結露（壁の内部における結露）の原因となる「壁内気流」への対策が課題の一つです。その対策の一つとして、「気流止め」がありますが、これまではその適切な施工方法、気流止めに伴う結露の防止方法、改修後の暖冷房負荷の低減効果等で、明らかになっていない点がありました。

北総研と硝子繊維協会との共同研究では、以下のことを明らかにすることができました。

- ・ 気流止めに使用する材料は、ポリエチレン（厚さ30 μ m以内）が付属するグラスウールで、幅が壁の内寸より10~45 mm大きいものが有効です。小屋裏側からもしくは内外装材を一部撤去して施工する方法があります。
- ・ 改修で気流止めのみを実施することで、条件によっては暖冷房負荷を50%削減できることがあります。内部結露を発生させてしまう可能性があります。その対策として、壁の上下端部ともに気流止めを実施すること、室内側のビニルクロス等による気密化もしくは付加断熱等が必要になります。

ご興味のある方は、ぜひ研究紹介資料や報告書をご覧ください。

▼研究紹介資料（本課題は平成28年度「一般共同研究」欄）

<http://www.hro.or.jp/list/building/develop/nenpou.html>

▼報告書（本課題はNo.380）

<http://www.hro.or.jp/list/building/develop/houkokusho.html>

■新規採用職員からひとこと

□北総研 地域研究部 地域システムG 長谷川 祥樹
(はせがわ よしき)

前職では、東京にある電機メーカーで水・大気を対象とした環境計測機器の研究・開発をしており、現在は、それらの民間ノウハウも活かしながら、農村地域における水インフラ（上水道や排水処理）の整備や管理に関する研究に従事しています。

学生時代以来、約10年ぶりに住む北海道で、仕事・私生活ともに充実した日々を過ごしています。建築やまちづくりの分野での経験は浅いのですが、日々新しいことを吸収し、北海道の人々の暮らしに貢献できるように努力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

□北総研 地域研究部 環境防災G 川村 壮
(かわむら たけし)

これまで社会人大学院生として北海道大学大学院の博士課程に在籍し、北海道の港湾都市における津波災害リスクについて、GIS（地理情報システム）による空間分析を中心に研究を行ってきました。生まれ育った北海道のまちづくりに対し、研究者として貢献できる機会をいただいたことに感謝申し上げます。元々の専門は建築ではなく、まだわからないことばかりではございますが、少しでも早く道民の皆様に貢献できるよう努力して参りますので、どうぞよろしくお願いたします。

□北総研 建築研究部 建築システムG 高橋 光一
(たかはし こういち)

昨年度までは学生として室蘭工業大学大学院に在籍しており、卒業論文および修士論文では材料内の過冷却水の凍結に着目した研究を行っていました。新規採用の職員の中では唯一の社会人1年目であり、まだまだ毎日緊張と不安だらけです。

今後、研究所内外の皆様との関わりを通して成長し、少しでも早く皆様のお役に立てるように精一杯頑張りたいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

□北総研 建築研究部 建築システムG 齊藤 隆典
(さいとう たかすけ)

この3月までは横浜に所在する神奈川大学で教育・研究業務に8年間従事しておりました。この度ご縁がありまして、自分の故郷である北海道で建築分野の研究というかたちで仕事をさせていただけることを大変嬉しく思っております。

これからは前職で培った経験も活かしながら、北海道のために貢献できるように研究業務に取り組んでいく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

今年度は4名の職員が新たに仲間入りしました。今後とも、ご指導のほどよろしくお願いいたします。なお、研究職員の専門分野等については、道総研研究職員データベースをご参照ください。

▼研究職員データベース

<http://www2.hro.or.jp/rschr/>

=====
管理者からのお知らせ

=====
アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。

登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。

メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken_n

変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken_q

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

発行：（地独）北海道立総合研究機構 建築研究本部

<http://www.hro.or.jp/list/building/research/nrb/index.html>